

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
15102001	推論機能を有する木簡など出土文字資料の文字自動認識システムの開発	渡辺 晃宏（国立文化財機構・奈良文化財研究所・都城発掘調査部・史料研究室長）	A+
<p>木簡文字の自動認識システムの開発およびその基盤となる木簡文字データベースの構築という二つの研究目的のいずれにおいても、著しい成果をあげており、木簡資料の解読は本研究によって飛躍的に進展することになったと評価できる。研究は当初の計画を上回るペースで進展しており、中間評価の際に付せられた要望にも十分応えるなど、研究期間の全体にわたってたゆみない努力が積み重ねられてきたことが明らかである。</p> <p>本研究は、日本古代史の研究にとどまらず、国語・国文学研究や韓国や中国における出土木簡の研究にも寄与するところ大であり、その学問的波及効果はきわめて大きい。また近年木簡に関心をもつ市民も増加しているが、本研究の成果である「木簡字典」は、幅広い利用者によって活用されることが予想され、その意味での社会的貢献も大きいものがある。</p> <p>今後、データを充実させて7世紀代をカバーすることや、筆順や墨継ぎ等の要素を積読支援システムにいかにか盛り込むかという点など、さらなる課題への取り組みを期待したい。</p>			